

令和3年度 学校評価（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	生徒一人ひとりが自立と社会参加に向けた学習内容や指導方法の充実を図る。 成人年齢や選挙権年齢の引き下げに対応した教育を実施する。	①主体的、対話的で深い学びを推進する。 授業のアイデアの共有と活用を進め、組織的な授業改善を図る。 ②成人年齢引き下げに関連した学習内容を整理し、段階的に指導する。	①主体的、対話的で深い学びの観点によるチェック表をいかし、授業を実践する。 教科会を活用し、学部全体で授業のアイデアを共有する。 ②入学から卒業まで段階的に授業内容を整理し、各学年で実践を積み重ねる。	①主体的、対話的で深い学びを取り入れた授業を全教員が実施できたか。 授業のアイデアを集積し、学部全体で共有できたか。 ②成人年齢引き下げに関連した学習内容を整理し、実践することができたか。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	生徒の個々の実態を的確に把握し、生きる力となるような指導や支援を行う。 社会生活に必要な、他者との協調・思いやり、規範・モラルの意識を育む指導を充実させる。	①アセスメントの結果をいかし、生徒一人ひとりの課題に応じた授業を実践する。 ②コミュニケーションや道徳教育において、認知発達に応じた課題設定に基づく授業を実践する。	①アセスメントの結果を個別教育計画に的確に反映させ、個人目標を明確に示した指導案により授業を実践する。 ②自立活動やSSEの観点について知り、認知発達に応じた課題設定についての知識・技術を高めるための研修を行う。	①個別教育計画に実態把握を明記し、個人目標や手立てに基づいた指導を実践することができたか。 ②自立活動やSSEの研修を行い、観点を確認することができたか。認知発達に応じた課題設定に基づく授業を実践することができたか。
3	進路指導・支援	生徒が納得できる進路選択を実現できるように、生徒の実態と思いを反映した指導、支援を行う。	①3年間の進路学習の内容やアフターフォローから見えてきた課題を共有化するとともに、組織的に指導内容を選定して実践することで生徒の実態と思いを反映した指導支援につなげる。 ②進路状況やアフターフォローから見えてきた課題を保護者に情報提供することで、保護者の理解を深め、連携したより良い進路指導・支援につなげる。	①現場実習等の振り返りの時間を充実させ、その時の生徒に課題をわかる形で提示し、次の取組につながるような指導・支援を行う。 ②「よこひな通信」、進路説明会での情報提供を行う。 進路面談等で保護者と個々の課題を確認し、より良い進路につなげていく。	①進路学習の内容やアフターフォローから見えてきた課題を共有化するとともに、生徒に現場実習の課題をわかる形で提示し、次の取組にいかすことができたか。 ②保護者への情報提供を通して、保護者の理解を深め、連携して進路指導・支援に取り組むことができたか。
4	地域等との協働	地域と連携し、教育活動や防災体制の充実を図る。 センター的機能を発揮し、地域の支援教育の推進を図る。	①高校や大学との連携による教育活動の充実を図る。 地域と連携した防災教育の実施と防災体制の強化を図る。 ②インクルーシブ教育実践推進校への充実した支援体制を確立する。	①リモート等の感染症対策を踏まえた交流や共同学習の方法を検討する機会を設ける。 コミュニティ・スクールの地域防災部会の場を活用して防災教育、防災体制の充実を検討する。地域防災拠点や近隣消防署に協力を依頼し、防災訓練、防災教育、職員防災研修を実施する。 ②近隣のインクルーシブ教育実践推進校への情報提供、相互交流、巡回相談、公開講座への呼びかけを通して支援を強化する。	①リモート等の感染症対策を踏まえた高校、大学との連携の方法を考え、実施することができたか。地域と連携した防災教育、防災体制に係る取組ができたか。 ②インクルーシブ教育実践推進校のニーズに応じた支援を実施できたか。
5	学校管理 学校運営	安全な環境を整備し、生徒が安心して学ぶことができる学校づくりを推進する。 教職員が生徒と向き合う時間を確保し、効果的な教育活動を実現する。	①教職員の人権意識等の向上を図る。 感染症の拡大防止対策を徹底して行い、拡大のリスクを軽減させる。 ②教職員の時間外勤務を減らすための業務負担を軽減する策を検討し、実施する。	①生徒の人権等に係る研修を計画的に実施する。 感染症の状況に応じて取組内容を見直し、組織的に取り組む。 ②業務アシスタントの他、学校業務サポーターに依頼できる業務を整理し、実行する。	①研修後のアンケートで自己評価が8割以上になったか。 全職員が感染症対策に基づいた取組を実施することができたか。 ②業務アシスタントの他、学校業務サポーターに業務を依頼し、職員の負担軽減につながったか。